

■ 学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参画できる社会づくり

(松原中学校)

1 【活動の趣旨】

様々な地域課題について、体験的な学びを通して、その解決に生徒が主体的に関わり、地域社会の一員としての意識と行動力を身に付けることをめざす。本年度は、校区の草津ブランド農産物「ベジクサ」の一つである「春大根」の栽培を通して、校区に根ざした農業を未来につなげる活動を展開する。

2 【特徴的な活動内容】

○農業体験（松原ファーム開墾）

地域コーディネーターとの連携のもと、草津市農林水産課の農商連携調整員や地元農家の方々の指導を通して、校内の余剰地の開墾や土壌改良、畝づくりや栽培などの農業に関わる体験活動を行った。余剰地を畑にするため、農家の方に重機で土を掘り起こしてもらい、生徒による石拾いから行った。その後、地域の方や草津市第二学校給食センターから堆肥等をいただき、土壌改良をすすめた。そして、春大根の種を蒔き、水やり・追肥をしながら栽培した。



【農業体験 開墾の様子】

○まっばら ESD 講演会

地域の農業に携わっておられる方を講師として招いて、草津ブランド野菜の栽培について講演会を開催した。

○「ベジクサ PR プロジェクト」

「ベジクサ」の魅力を PR するため、啓発ポスターや販売促進に役立つポップをつくり、まちづくりセンターや地元販売所等の施設に掲示してもらった。



【校地内の畑】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・農業体験を行うにあたって、総合的な学習の時間を通して、農作物を育てる意義や目的を考え、草津市の特産野菜である「ベジクサ」について調べ学習等を行った。
- ・学校の HP を活用し、PR 活動を行った。

4 【事業の成果】

- ・教職員では満たせない「専門的な知識」、「多くの目で細やかにみること」、「安心安全面のサポート」等により、生徒の学習や体験の充実を図ることができた。
- ・地域関係者やボランティアの方々との関わりにより、生徒たちにとって温かいつながりを持つとともに、コミュニケーションスキル向上の一助となった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・地域関係機関との連携を通して、地域ボランティアの充実を図る。
- ・地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討していく。